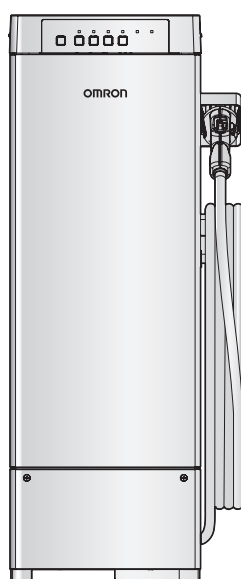


取扱説明書

トリプル蓄電システム KPTP-Aシリーズ V2Hスタンド 品番 KP-DDV-B



このたびはV2Hスタンドをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（2～3 ページ）を必ずお読みください。

- この商品を利用できるのは日本国内のみで、国外では使用できません。
This equipment is designed for domestic use in Japan only and cannot be used in any other countries.

もくじ

安全上のご注意	2	はじめに
使用上のお願い	4	
各部の名前	5	
EVへの充電(自動)～片付け	7	使いかた
今すぐ充電する	9	
EVから放電し家庭で使う	11	
充放電コネクタをロック・アンロックする	12	
EV・蓄電池間で電力を移動する[eムーブ]	13	
V2Hスタンドのボタン操作を禁止する	15	
充放電できない	16	こんなときは
EVの電力でシステムを起動する	17	
充放電コネクタの緊急離脱	19	
充放電コネクタ・ケーブルの寿命	21	
その他のトラブル	22	
点検とお手入れのしかた	23	必要なときに
仕様	24	
EV接続時のご注意	26	
補助金申請関連	27	
保証とアフターサービス	裏表紙	

施工説明書別添付



8A4B06000010

品番 5843531-1 A



FJ0725-0

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

■ V2Hスタンドの取り扱い時

感電、けが、火災、故障のおそれ



警告



禁止

- 本体の上に乗ったり、もたれかかったりしない
- 隙間に指や工具を入れない
- ぬれた手で触らない
- 充放電コネクタをぬらさない
- 充放電コネクタおよび車両給電口の電極部に触れない
- 充放電ケーブルを束ねた状態、またはケーブルフックに巻きつけた状態のままで使用しない
- 充放電ケーブルがねじれている状態で無理に引っ張らない
ケーブルがねじれている場合は、丁寧にねじれをほどいてから使用してください。
- 充放電ケーブルは、以下のような過度な力を加えない
 - ・ ぶら下がる
 - ・ 引っ張る
 - ・ 屈曲させる
 - ・ 踏みつける
 - ・ 車両のタイヤでひくなど特に低温時にご注意ください。
- 日差しが強い日や寒い日は、本体、充放電コネクタおよび充放電ケーブルを素手で触らない
やけどや凍傷のおそれがあります。
- 適合する車両以外には使用しない
適合車両の情報は、当社ホームページよりご確認ください(26 ページ参照)



禁止

- お子様を近くで遊ばせない
基礎部分につまずくなど思わぬ事故のおそれがあります。
- ビニール袋、布、布団、服などで覆わない
- 心臓ペースメーカや植込み型除細動器(ICD)をお使いの方は、V2Hスタンドの運転中、本体や充放電ケーブルに近寄らない
V2Hスタンドからの電磁波がペースメーカなどに影響を与えるおそれがあります。



必ず守る

- 日常点検は確実にを行う
- 充放電コネクタや充放電ケーブルの割れ、欠けなどを発見した場合や異常が発生した場合は、停止ボタンを押し、ただちに使用を中止する
販売店にご相談ください。
- ブレーカ電流上限設定は、引込口装置の許容電流を超えない値に設定する
- 充放電ケーブルに付着した雨水などが凍結している場合は、20～40℃程度のぬるま湯で解凍してから使用する
充放電コネクタにお湯がかからないように注意してください。
- 充放電コネクタの緊急離脱は、専用工具に付属の説明書をよく読んで行う
感電のおそれがあります。
トリプル蓄電システム用リモコンにエラーコードが表示されていたら、よく確認してください。

感電、けが、火災、故障のおそれ

⚠ 注意

 禁止  必ず守る	● V2Hスタンドに振動や衝撃を与えない ● 充放電コネクタを落としたり、踏みつけたり、振り回したりしない ● 充放電コネクタを取り外すときは、強引に引っ張らない 離脱ボタンを押しながら丁寧に取り外してください。 ● 充放電操作は車両の取扱説明書もよく読んで行う 車両側の機器が故障する原因となります。 ● 充放電コネクタを差し込むときは、「カチャ」と音がするまで確実に奥まで差し込む	 必ず守る ● 充放電コネクタを使用したあとは、コネクタホルダーに戻す ● 充放電ケーブルは、地面に触れないようにケーブルフックに巻き付ける(4回) ● アクセサリーケーブルを使用したあとは、アクセサリーケーブル差し込みコネクタのネジ蓋を確実に締める ● 不要になったV2Hスタンドは、万一の倒壊を防止するため、速やかに撤去する
--	--	---

■保守・点検時

感電、けが、火災、故障のおそれ

⚠ 警告

 禁止	● 水洗いや有機溶剤(ベンジンなど)または洗剤などを使用して清掃しない	 必ず守る ● お手入れは、システムの運転を停止してから行う。 ● 定期点検で異常や不具合があれば、直ちに使用を中止する。 販売店や施工店にご相談ください。
---	---	---

発煙、けが、故障のおそれ

⚠ 注意

 必ず守る	● 動物の排泄物などの付着が考えられる場合は、点検頻度を増やす ● 本体に植栽などの土がかからないように管理する サビなどの腐食が促進し、倒壊の原因になります。 ● サビが発生した場合は、早期に補修する
---	---

免責事項

- お客様もしくは第三者が本機の使用を誤ったことにより生じた故障、不具合、またはそれらに基づく損害については、法令上の責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本システムの使用に際して接続した機器の故障などの補償や、本機の故障によって生じた本機以外の直接・間接の損害について、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本システムの不具合など何らかの原因で、車両内記憶装置・外部メディア・記録機器などに記録ができなかった場合やそれらに既に記録されていた内容が破損・消滅した場合など、いかなる場合においても、記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切の責任を負いかねます。
- 天候などにより発電量が少ない場合は、余剰電力による蓄電量が減り、買電量が増える場合があります。
- 充放電コネクタを不適切な取り扱いや仕様環境外で使用された場合、または、充放電コネクタをEVの給電口に異常な状態で仮合離脱作業した場合に生じた、充放電コネクタ自体の故障を含むいかなる損害に関して、当社は一切その責任を負いかねます。

以上、あらかじめご了承ください。

使用上のお願い

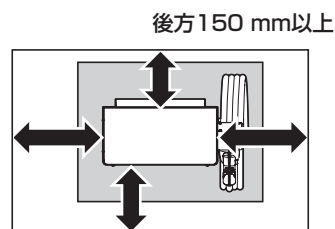
設置場所について

■V2Hスタンドは、放熱や点検用に右図に示すスペースが必要です。【上から見た図】
範囲内には物を置かないでください。

■アマチュア無線のアンテナが近隣にあるところでは、無線機にノイズが発生するおそれがあります。

■動作障害を避けるため、ラジオ・携帯電話・電氣的雑音の影響を受けると困る電気機器などは、トリプル蓄電パワーコンディショナやV2Hスタンドの近くで使用しないでください。

■商用電源電力が無い場所や、日常的、定期的に長時間、高頻度の停電が発生するような場所で使用しないでください。



前方：800 mm以上を推奨
移動可能な場合は200 mm以上
左右：300 mm以上
移動可能な場合は150 mm以上
上方：150 mm以上

V2Hスタンド使用時のお願い

■充放電コネクタが汚れていたり、水が付着したりしている場合は、乾いた布で拭き取ってから使用してください。

■清掃方法については「お手入れのしかた」（23 ページ）を確認してください。

■積雪時は操作や吸気(V2Hスタンド下部)の妨げにならないように除雪してください。

お知らせ

ご注意

- 運転中に下記の音(正常動作音)が聞こえることがありますが、異常ではありません。
 - ・「カチッ音」：運転の開始および停止のときにリレーから発生する音
 - ・「ジージー音」「キー音」：高周波スイッチング動作により内部機器から発生する音

■ご使用者が変わる場合は、必ず取扱説明書をご確認の上、操作してください。

- 特に、「安全上のご注意」（2 ページ）、「免責事項」（3 ページ）、「EV接続時のご注意」（26 ページ）は必ずご確認ください。

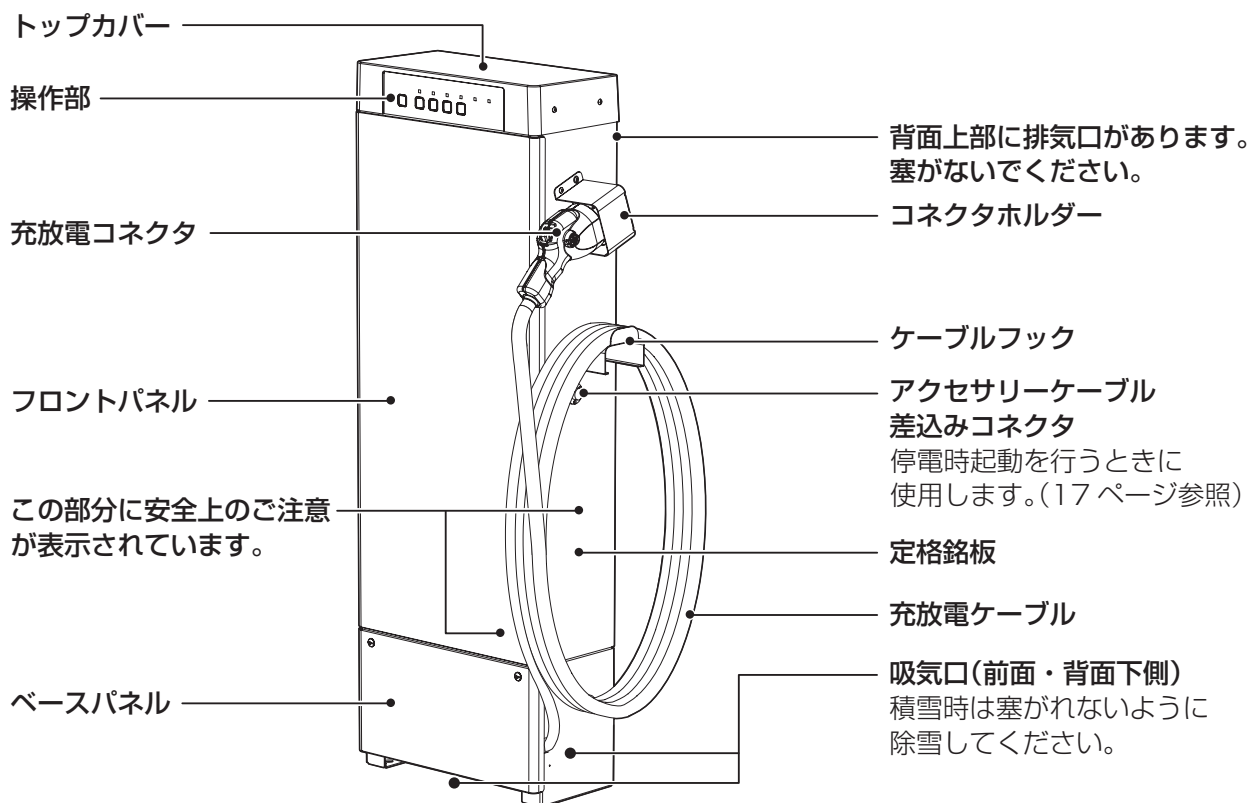
■EV固有充電上限の値以上にEV蓄電池に充電したり、EV固有放電下限の値以下まで放電することはできません。対象車種固有の充電上限・放電下限は、当社ホームページからご確認ください。

本書の見方

各機器の仕様やお手入れ方法は、各機器に同梱されている取扱説明書をご確認ください。
トリプル蓄電システム用リモコンの画面や操作方法、エラーコードなどについては、トリプル蓄電パワーコンディショナの取扱説明書をご確認ください。

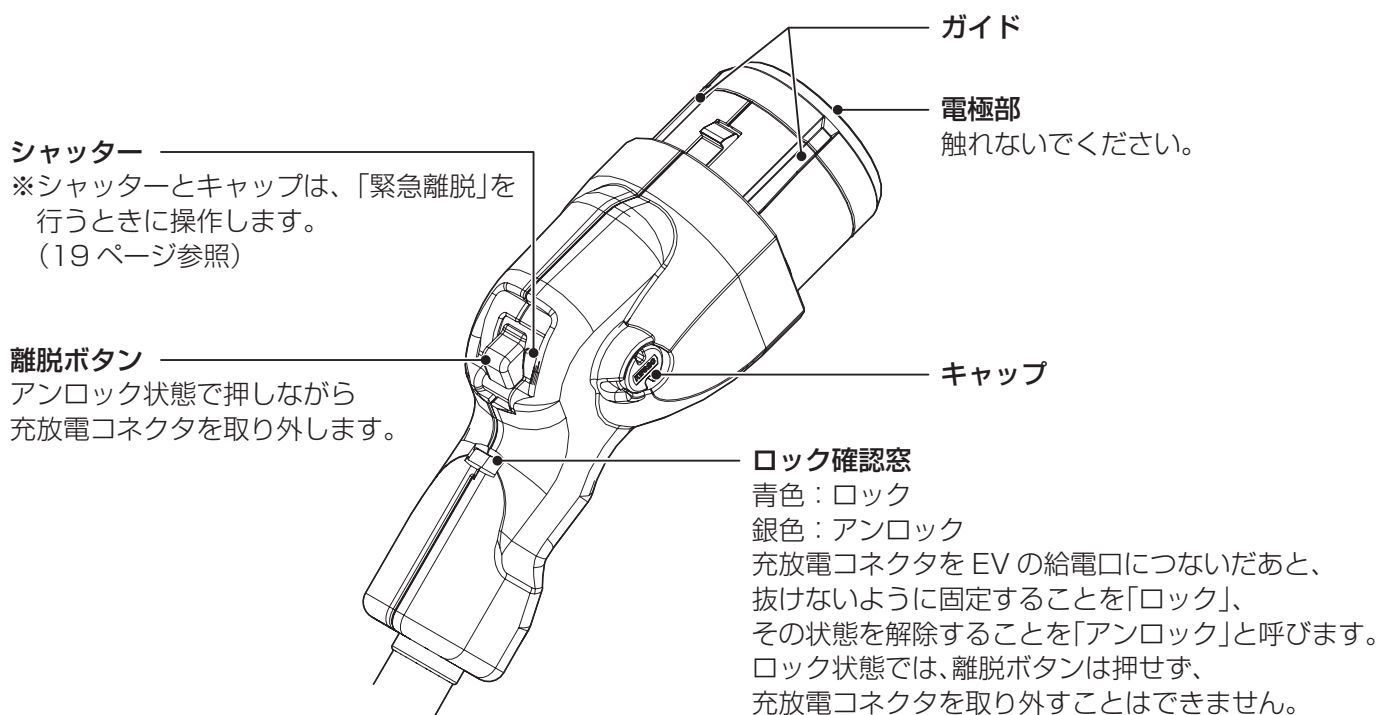
各部の名前

V2Hスタンド本体



はじめに

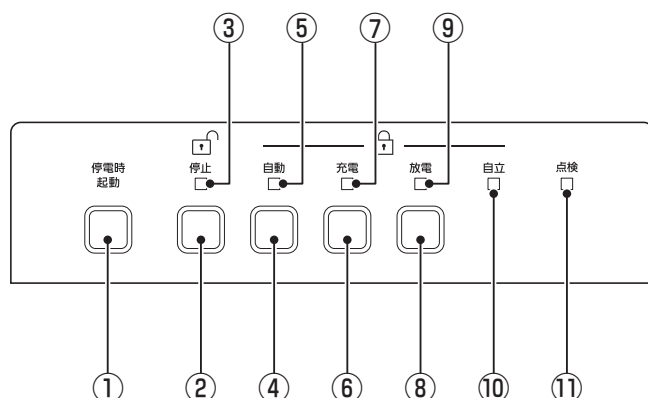
充電コネクタ



● 以下、V2Hスタンドに接続可能な電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHEV)をEVと記載します。

各部の名前(つづき)

操作部



※ トリプル蓄電システム用リモコンからボタン操作を禁止することができます。
ボタンを押した後、LEDが点灯しない場合は、トリプル蓄電システム用リモコンのV2Hスタンド操作許可設定を確認してください。(15 ページ参照)

① 停電時起動ボタン

停電により電力供給が断たれ、システムが停止したときにアクセサリケーブルでEVと接続して停電時起動ボタンを押すと、接続しているEVから電源供給を受けてシステムを起動できます。(17 ページ参照)

② 停止ボタン

設定した運転モードによるV2Hスタンドの運転やEVの充電・放電を停止します。
充放電コネクタはアンロックされます。
また、一部のエラーコードへの対処に使用します。

③ 停止LED

V2Hスタンドの停止中、緑色に点灯します。

④ 自動ボタン

充放電コネクタをEVに接続して自動ボタンを押すと、充放電コネクタがロックされ設定した運転モードで運転します。

⑤ 自動LED

設定した運転モードで運転中、赤色に点灯します。

⑥ 充電ボタン

充放電コネクタをEVに接続して充電ボタンを押すと、充放電コネクタがロックされEVに充電します。

⑦ 充電LED

手動で充電中、赤色に点灯します。

⑧ 放電ボタン

充放電コネクタをEVに接続して放電ボタンを押すと、充放電コネクタがロックされEVから放電します。

⑨ 放電LED

手動で放電中、赤色に点灯します。

⑩ 自立LED

システムの自立運転中、赤色に点灯します。

⑪ 点検LED

トリプル蓄電システム用リモコンにお知らせが表示されているとき、赤色に点滅します。

- 蓄電池(ユニットおよびEV)の蓄電量により、自動ボタンや放電ボタンの押下時に、充電が開始されることがあります。
また、電圧上昇抑制運転時にも充電されることがあります。
- 充放電コネクタを接続しないで、ボタン操作を繰り返し行くと、点検LEDが点滅しトリプル蓄電システム用リモコンにエラーコードを表示することがあります。

■ 付属品(必要な時にいつでも取り出せるよう大切に保管してください)

名称	形状	員数
緊急離脱工具セット		1
特殊ドライバー		1
専用工具		1
取扱説明書		1

名称	形状	員数
アクセサリケーブル		1
取扱説明書		1
かんたんガイド		1

EVへの充電(自動)～片付け

設定した運転モードでシステムを運転中に、EVに自動で充電(放電)します。

※EV側での操作が必要な場合もありますので、充電・放電を行う前にEVの取扱説明書をよくご確認ください。

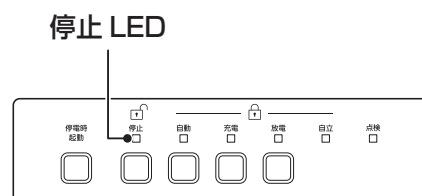
充放電コネクタを接続する

1 停止LED(緑色)が点灯していることを確認する

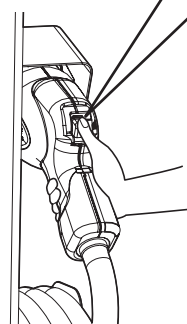
LED表示状態については6ページをご確認ください。

2 充放電コネクタをコネクタホルダーから取り外す

離脱ボタンを押しながら取り外してください。



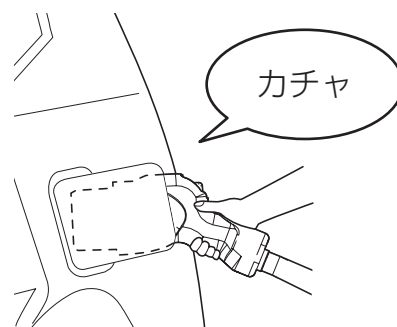
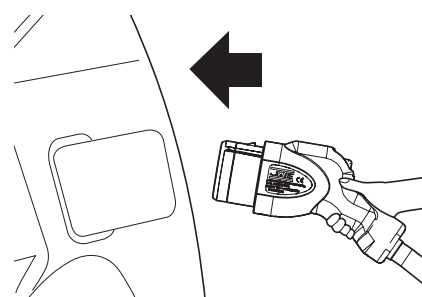
離脱ボタンを押しながら取り外す



3 ケーブルフックに巻き付けてある充放電ケーブルを取り外す

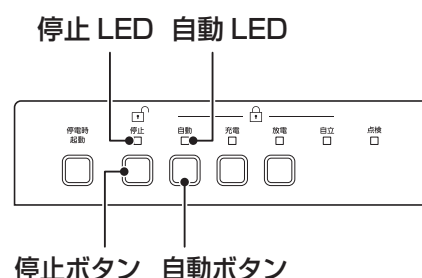
4 2か所のガイドをEVの給電口の溝に合わせながら充放電コネクタを差し込む

差し込みづらい場合もあります。「カチャ」と音がして、確実に固定されたことを確認してください。
(固定不十分の状態では、充電などを行うことはできません。)



5 操作部の自動ボタンを押す

自動LEDがしばらく点滅したあと赤色点灯し、設定した動作を行います。
充放電コネクタはロックされます。(5ページ参照)
操作部の停止ボタンを押すと、V2Hスタンドは待機状態に戻り、停止LED(緑色)が点灯します。



EVへの充電(自動)～片付け(つづき)

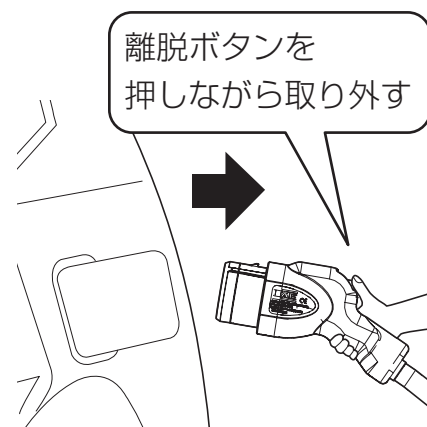
充放電コネクタを片付ける

6 停止ボタンを押し、給電口から充放電コネクタを取り外す

EVの充電状態は、トリプル蓄電システム用リモコンのトップ画面で確認してください。

充放電コネクタはアンロック(ロック解除)されます。

停止LED(緑色)の点灯後、離脱ボタンを押しながら取り外してください。

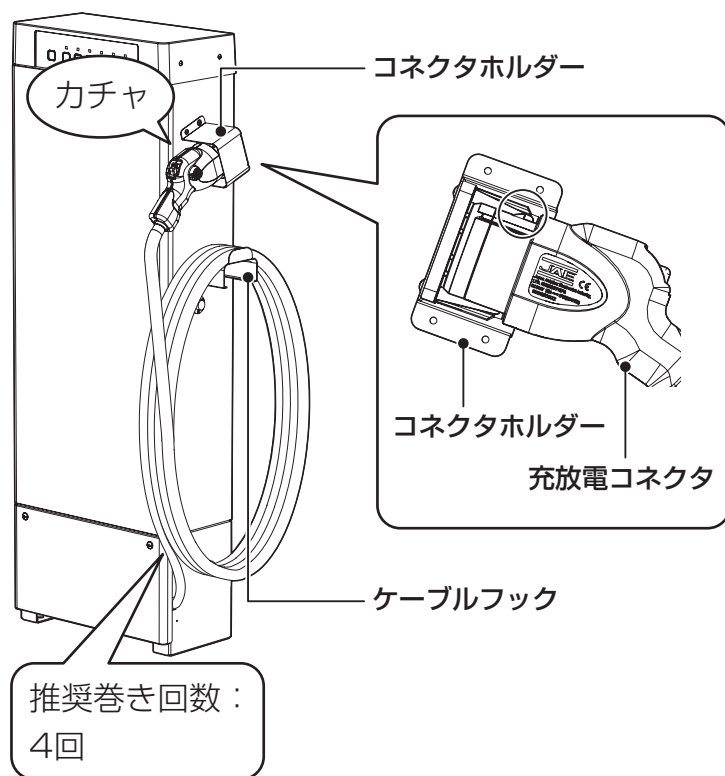


7 充放電ケーブルをケーブルフックに巻き付ける

充放電ケーブルが地面につかないように推奨回数(4回)巻き付けてください。

8 充放電コネクタをコネクタホルダーに戻す

充放電コネクタの2か所のガイドがコネクタホルダーの溝に合うように戻し、「カチャ」と音がして、確実に固定されたことを確認してください。



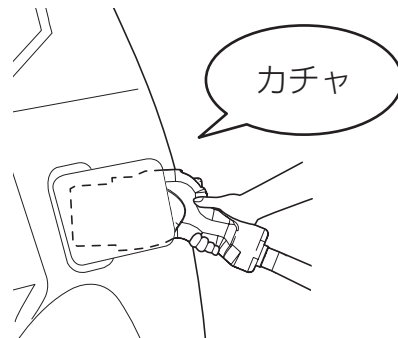
今すぐ充電する

「少し遠くまで出かけることになったので、EVを満充電にしておきたい」、「台風による停電に備えて、蓄電池を満充電にしておきたい」など、すぐにEVおよび蓄電池を充電したいときには、手動で充電が可能です。

EVを手動で充電する

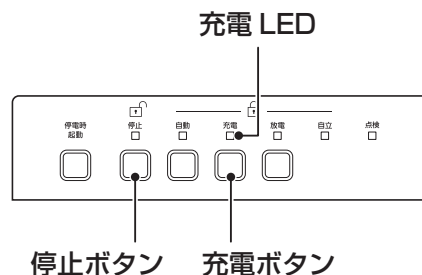
1 EVの給電口に 充放電コネクタを差し込む

詳しい接続方法は7ページを参照してください。
既に充放電コネクタがEVに接続されている場合は、
手順2へ進んでください。



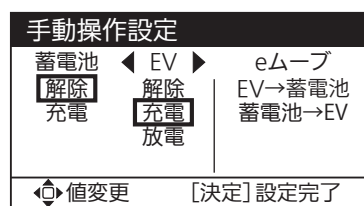
2 操作部の充電ボタンを押す

充電が開始され、充電LEDが赤色に点灯します。

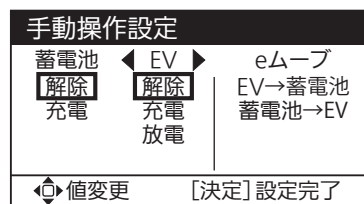


トリプル蓄電システム用リモコンの
TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 > 手動操作設定
からも充電を開始できます。

※トリプル蓄電システム用リモコンからEV蓄電池の充放電操作を
行う場合は、別途、充放電コネクタをロックする必要があります。
(12ページ参照)



- トリプル蓄電システム用リモコンの
TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 > 手動操作設定
から解除を選択することで設定した運転モードに戻ります。
- 操作部の停止ボタンを押すと、充電を終了し、コネクタをアンロックします。



3 充電が終了したことを確認する

充電が終了すると、待機状態になります。
充電の状況は、トップ画面に戻ってEV蓄電池残量の表示を確認してください。
充放電コネクタをEVから取り外す場合は、8ページを参照してください。

今すぐ充電する(つづき)

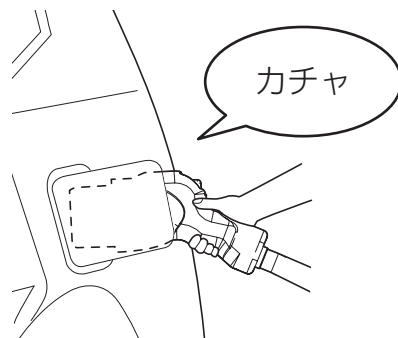
EVと蓄電池を手動で同時に充電する

- 充電時における、EVと蓄電池の充電優先度は以下で設定した値になります。
 - ・ 充放電優先度設定(トリプル蓄電パワーコンディショナ取扱説明書 37 ページ参照)

充放電優先度設定			
充電時		放電時	
蓄電池	EV	蓄電池	EV
50%	50%	100%	0%
◀▶値変更		[決定] 設定完了	

1 EVの給電口に 充放電コネクタを差し込む

詳しい接続方法は 7 ページを参照してください。
既に充放電コネクタがEVに接続されている場合は、
手順2 へ進んでください。



2 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して 充電を開始する

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
手動操作設定



で以下のように設定し、

決定

を押してください。

- ・ 蓄電池：充電
- ・ EV：充電

「設定を受けました。」メッセージ表示後、充電が開始されます。
※充放電コネクタをロックする必要があります。(12 ページ参照)

手動操作設定		
◀蓄電池▶ 解除 充電	EV 解除 充電 放電	eムーブ EV→蓄電池 蓄電池→EV
◀▶値変更		[決定] 設定完了

- 「手動操作設定」画面で以下のように設定して **決定** を押すと、
充電を停止し、あらかじめ設定された運転モードに戻ります。

- ・ 蓄電池：解除
- ・ EV：解除

手動操作設定		
◀蓄電池▶ 解除 充電	EV 解除 充電 放電	eムーブ EV→蓄電池 蓄電池→EV
◀▶値変更		[決定] 設定完了

3 充電が終了したことを確認する

充電の状況は、トップ画面に戻って蓄電池残量およびEV蓄電池残量の表示を確認してください。
充放電コネクタをEVから取り外す場合は、8 ページを参照してください。

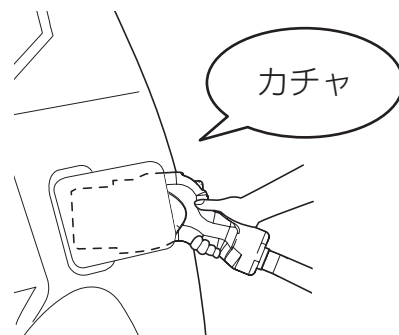
EVから放電し家庭で使う

EVに充電した電力を手動で放電することで、家庭で活用することができます。

EVから手動で放電する

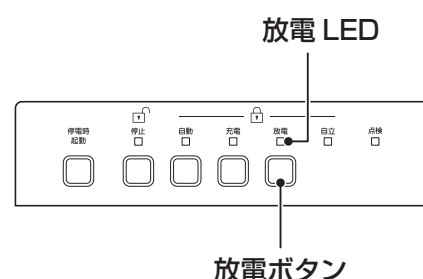
1 EVの給電口に 充放電コネクタを差し込む

詳しい接続方法は 7 ページを参照してください。
既に充放電コネクタがEVに接続されている場合は、
手順2 へ進んでください。



2 操作部の放電ボタンを押す

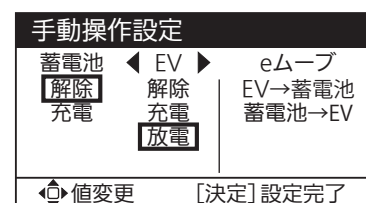
放電が開始され、放電LEDが赤色に点灯します。



トリプル蓄電システム用リモコンの
[TOP > メニュー \(1/3\) > 手動操作/V2H操作設定 >](#)
手動操作設定

からも放電を開始できます。

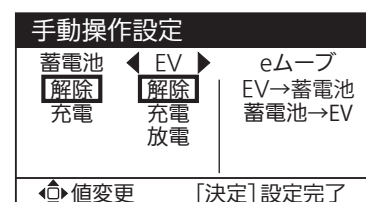
※充放電コネクタをロックする必要があります。(12 ページ参照)



- 操作部の停止ボタンを押すと、放電を終了し、
コネクタをアンロックします。

トリプル蓄電システム用リモコンの
[TOP > メニュー \(1/3\) > 手動操作/V2H操作設定 >](#)
手動操作設定

からも放電を停止できます。



3 放電が終了したことを確認する

放電が終了しても、わずかに放電することがあります。
放電の状況は、トップ画面に戻って蓄電池残量の表示を確認してください。
充放電コネクタをEVから取り外す場合は、8 ページを参照してください。

充放電コネクタをロック・アンロックする

トリプル蓄電システム用リモコンからEVの充電・放電操作を行うためには、充放電コネクタをロックする必要があります。

手動操作設定とコネクタロック操作のどちらを先に行っても構いません。

充放電コネクタをロックする

1 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して 充放電コネクタにロックをかける

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
コネクタロック操作

  で「ロック」を選択し、 を押してください。

「コネクタをロックしました。」メッセージ表示後、
充放電コネクタにロックがかかります。

※トリプル蓄電パワーコンディショナが運転中のみ
ロックすることができます。
停止中や維持充電中はロックできません。

コネクタロック操作

コネクタ状態	アンロック
ロック	コネクタをロックし、 手動操作設定で設定された 動作を開始します。
アンロック	
↑ 項目選択	[決定] 設定完了

コネクタをロックしました。

充放電コネクタをアンロックする(ロック解除)

1 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して 充放電コネクタのロックを解除する

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
コネクタロック操作

  で「アンロック」を選択し、 を押してください。

「コネクタをアンロックしました。」メッセージ表示後、
充放電コネクタのロックが解除されます。

コネクタロック操作

コネクタ状態	ロック
ロック	コネクタをアンロックし、 EVとの接続を切り離します。
アンロック	
↑ 項目選択	[決定] 設定完了

コネクタをアンロックしました。

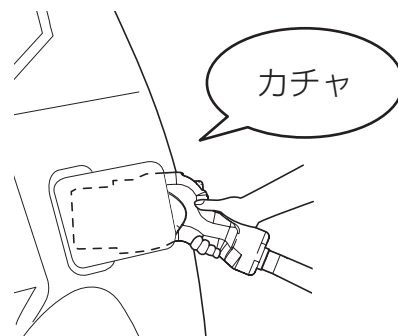
EV・蓄電池間で電力を移動する【eムーブ】

EVの電力を手動で蓄電池に移す

外出先などでEVに充電した電力を手動で、EVから蓄電池へ移動させることができます。

1 EVの給電口に 充放電コネクタを差し込む

詳しい接続方法は7ページを参照してください。
既に充放電コネクタがEVに接続されている場合は、
手順2へ進んでください。



2 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して EVの電力を蓄電池に移す

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
手動操作設定



で以下のように設定し、

決定 を押してください。

・eムーブ：EV→蓄電池

「設定を受付けました。」メッセージ表示後、電力の移動が開始されます。

※充放電コネクタをロックする必要があります。(12ページ)

※eムーブの状態では太陽光発電電力の売電はできません。

手動操作設定		
蓄電池 解除 充電	EV 解除 充電 放電	eムーブ EV→蓄電池 蓄電池→EV
◀▶ 値変更		[決定] 設定完了

●「手動操作設定」画面で以下のように設定して **決定** を押すと、
電力の移動を停止し、あらかじめ設定された運転モードに戻ります。

・蓄電池：解除

・EV：解除

※トリプル蓄電システム用リモコンの操作を行わずに、
V2Hスタンドの停止ボタンを押した場合、電力の移動は停止しますが、
設定の運転モードには戻りません。

手動操作設定		
蓄電池 解除 充電	EV 解除 充電 放電	eムーブ EV→蓄電池 蓄電池→EV
◀▶ 値変更		[決定] 設定完了

3 電力の移動が終了したことを確認する

電力の移動が終了すると、待機状態になります。

電力の移動の状況は、トップ画面に戻って蓄電池残量およびEV蓄電池残量の表示を確認してください。

充放電コネクタをEVから取り外す場合は、8ページを参照してください。

EV・蓄電池間で電力を移動する[eムーブ](つづき)

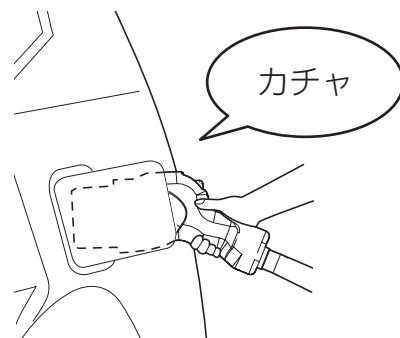
蓄電池の電力を手動でEVに移す

蓄電池に充電した電力をEVへ移動させることができます。

太陽光発電による電力をEVに移動させれば、環境に優しい再生可能エネルギー（グリーンエネルギー）を使用してEVを運転できます。

1 EVの給電口に 充放電コネクタを差し込む

詳しい接続方法は7ページを参照してください。
既に充放電コネクタがEVに接続されている場合は、
手順2へ進んでください。



2 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して 蓄電池の電力をEVに移す

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
手動操作設定



で以下のように設定し、

決定 を押してください。

・eムーブ：蓄電池→EV

「設定を受付けました。」メッセージ表示後、電力の移動が開始されます。

※充放電コネクタをロックする必要があります。(12ページ参照)

※eムーブの状態では太陽光発電電力の売電はできません。

手動操作設定		
蓄電池 解除 充電	EV 解除 充電 放電	eムーブ EV→蓄電池 蓄電池→EV
◀値変更		[決定] 設定完了

●「手動操作設定」画面で以下のように設定して **決定** を押すと、

電力の移動を停止し、あらかじめ設定された運転モードに戻ります。

・蓄電池：解除

・EV：解除

※トリプル蓄電システム用リモコンの操作を行わずに、

V2Hスタンドの停止ボタンを押した場合、電力の移動は停止しますが、
設定の運転モードには戻りません。

手動操作設定		
蓄電池 解除 充電	EV 解除 充電 放電	eムーブ EV→蓄電池 蓄電池→EV
◀値変更		[決定] 設定完了

3 電力の移動が終了したことを確認する

電力の移動が終了すると、待機状態になります。

電力の移動の状況は、トップ画面に戻って蓄電池残量およびEV蓄電池残量の表示を確認してください。

充放電コネクタをEVから取り外す場合は、8ページを参照してください。

V2Hスタンドのボタン操作を禁止する

V2Hスタンドを操作されたくないときに、V2Hスタンドのボタン操作を禁止することができます。

- V2Hスタンドのボタン操作を禁止しても、停止ボタンおよびトリプル蓄電システム用リモコンからの操作は有効です。

V2Hスタンドのボタン操作を禁止する

1 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して V2Hスタンドのボタン操作を禁止する

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
V2Hスタンド操作許可設定

  で「禁止」を選択し、 を押してください。

「設定を受付けました。」メッセージ表示後、
V2Hスタンドのボタン操作が無効になります。

V2Hスタンド操作許可設定	
許可 禁止	第三者の利用を防ぐため V2Hスタンドからの 操作を禁止します。 (「停止」操作のみ可能)
 項目選択	[決定] 設定完了

V2Hスタンドのボタン操作を許可する

1 トリプル蓄電システム用リモコンを操作して V2Hスタンドのボタン操作を許可する

TOP > メニュー (1/3) > 手動操作/V2H操作設定 >
V2Hスタンド操作許可設定

  で「許可」を選択し、 を押してください。

「設定を受付けました。」メッセージ表示後、
V2Hスタンドのボタン操作が有効になります。

V2Hスタンド操作許可設定	
許可 禁止	V2Hスタンドからの 操作を許可します。
 項目選択	[決定] 設定完了

充放電できない

EVを充電できない

■使用温度範囲

V2Hスタンドを設置している場所の気温が、使用温度範囲(−20〜+50℃)外になっている可能性があります。気温が動作温度範囲内に戻ると自動的に運転を再開します。
システムを構成する他の機器の使用温度範囲については、各機器の取扱説明書をご確認ください。

■トリプル蓄電システム用リモコンの設定

- EV充電上限(トリプル蓄電パワーコンディショナ取扱説明書36ページ参照)、EV充電上限(常時)(同37ページ参照)：
「EV充電上限」で設定されている値以上にEVを充電することはできません。

自家消費モード (EV充電上限)	
EV固有 充電上限 95 %	EV充電上限 (50%~100%) ▲80%▼
値変更	[決定] 設定完了

■充放電コネクタの状態

EVの給電口に差し込んだ充放電コネクタに、ロックがかかっていない可能性があります。トリプル蓄電システム用リモコンを操作して、充放電コネクタにロックをかけてください。(12ページ参照)

■EVの充電が遅い

EVがなかなか満充電にならない時には、「充放電優先度設定」の充電時でEVの比率が小さい可能性があります。設定をご確認ください。
また、低温時には、蓄電池の保護のために充電に時間がかかることがあります。

■EV蓄電池への充電が100%にならない

昼間にEV蓄電池が100%まで充電されない場合は、夜間の放電量を減らすため、放電下限設定値を上げてください。

EVから放電できない

■使用温度範囲

V2Hスタンドを設置している場所の気温が、使用温度範囲(−20〜+50℃)外になっている可能性があります。気温が動作温度範囲内に戻ると自動的に運転を再開します。
システムを構成する他の機器の使用温度範囲については、各機器の取扱説明書をご確認ください。

■トリプル蓄電システム用リモコンの設定

- EV放電許可設定(トリプル蓄電パワーコンディショナ取扱説明書36ページ参照)：
「EV放電許可設定」を「禁止」に設定している場合、設定した運転モードおよび外部制御による運転中に、EVから放電を行うことができません。「許可」に設定してください。

EV放電許可設定	
自家消費モード、タイマーモード および外部制御中に EVから放電を許可しますか？	
☒ 許可	☐ 禁止
◀項目選択	[決定] 設定完了

■充放電コネクタの状態

EVの給電口に差し込んだ充放電コネクタに、ロックがかかっていない可能性があります。トリプル蓄電システム用リモコンを操作して、充放電コネクタにロックをかけてください。(12ページ参照)

■余剰電力の売電中

太陽光発電の余剰電力を発電中は、EVから放電できません。
余剰電力の売電が終了するまでお待ちください。

EVの電力でシステムを起動する

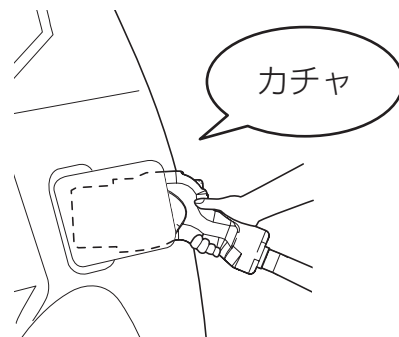
太陽光による発電がなく、蓄電池からの電力供給もなく、かつ、V2Hスタンドの充放電コネクタがロックされていない状態(アンロック)で停電すると、システムが停止します。

このようなときは、アクセサリーケーブルを用いてEVから給電することで、システムを起動できます。これを「停電時起動」と呼びます。

1 EVの給電口に 充放電コネクタを差し込む

詳しい接続方法は7ページを参照してください。
既に充放電コネクタがEVに接続されている場合は、
手順2へ進んでください。

※ システムを起動させるための制御用電源供給機能(3番ピン起動)を持つEVは、アクセサリーケーブルの接続は不要ですので、手順4に進んでください。(そのあとの手順5、6も不要です)
EV側の設定については、EVの取扱説明書をご確認ください。
制御用電源供給機能を持つEVは、対応車種一覧のホームページで確認ください。



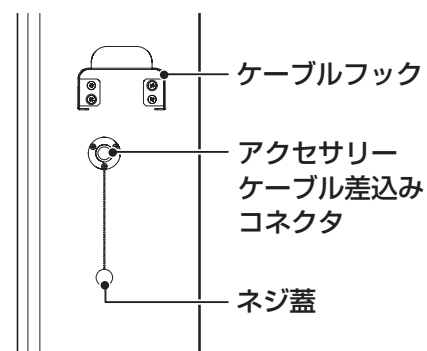
2 本体右側面にあるアクセサリーケーブル 差し込みコネクタのネジ蓋を外し、 付属のアクセサリーケーブルを差し込む

ネジ蓋は反時計回りに回して外してください。
アクセサリーケーブルの屋外用防水コネクタ側を差し込んでください。

アクセサリーケーブル



本体右側面



● 雨天時などは、アクセサリーケーブルのコネクタ(屋外用防水コネクタおよび差し込みコネクタ)に水分が付かないようにご注意ください

3 アクセサリーケーブルの差し込みコネクタをEVの 電源ソケットに差し込み、EVのソケットスイッチをONにする

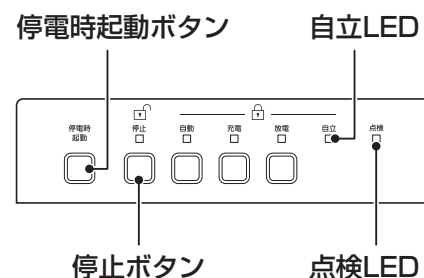
アクセサリーケーブルはEVの窓に通してください。
電源ソケットの位置、アクセサリーケーブルの差し込み方、およびソケットスイッチの位置・操作方法については、EVの取扱説明書をご確認ください。

EVの電力でシステムを起動する(つづき)

4 操作部の停電時起動ボタンを押す

EVからの放電が開始されるとV2Hスタンドが起動し、自立LEDが赤色に点滅します。

- 点検LEDが点滅している場合は、停電時起動を実施できない場合があります。停止ボタンを5秒以上長押しして点検LEDの点滅を消してから、再び停電時起動ボタンを押してください。それでも実施できない場合は、EVのソケットスイッチをOFFにし、アクセサリケーブルを取り外して、V2HスタンドのLEDが消灯するまで(3分程度)待ってから、やり直してください。



5 自立LEDの点灯(赤色)を確認したあと、EVのソケットスイッチをOFFにし、アクセサリケーブルを取り外す

システムが起動し、トリプル蓄電システム用リモコンで操作可能になります。

停電中は自立運転を行います。

自立運転の詳しい説明はトリプル蓄電パワーコンディショナ取扱説明書24～28ページをご確認ください。

- EV側の電力(補機バッテリー=12Vバッテリー)を消費しますので、起動後はEVのソケットスイッチをOFFにし、アクセサリケーブルを取り外してください。

6 アクセサリケーブル差込みコネクタのネジ蓋を確実に閉める

充放電コネクタの緊急離脱

V2Hスタンドまたはトリプル蓄電システム用リモコンの操作により充放電コネクタのロックを解除したにもかかわらず、離脱ボタンを押しても充放電コネクタがEVから取り外せない故障が発生する可能性があります。付属の緊急離脱工具セットは、このような場合に、緊急で取り外す（緊急離脱）ための工具です。急を要していない場合は、使用する前にお買い上げの販売店にご相談ください。

必ず事前にお読みください

緊急離脱工具セットは、すぐに取り出し可能な所に大切に保管してください。

セットの袋を開封する前に、必ず本説明、またはセットに同梱の説明書をお読みください。

- 緊急離脱を行う前に、必ずトリプル蓄電システム用リモコンのエラーコードを確認してください。
- 緊急離脱を行った場合、その充放電コネクタは使用できなくなり、当社サービスによる調整・点検が必要になります。（緊急離脱実施の理由および保証期間にかかわらず有償となります）
- 緊急離脱は必ず、下記の「緊急離脱に関する安全上のご注意」をお読みいただき、次ページの「充放電コネクタを緊急離脱する」の手順に沿って実施してください。
- 緊急離脱工具セットが入った袋の開封により、本書記載内容を確認・同意いただいたことになります。

緊急離脱に関する安全上のご注意



警告



禁止

- 操作部の自動LED・充電LED・放電LED・自立LEDが点灯している場合は、緊急離脱を実施しない感電のおそれがあります。
- 緊急離脱が禁止されているエラーコード表示時は、緊急離脱を実施しない感電のおそれがあります。エラーコードは、下記「緊急離脱の実施前に」を確認してください。
- 充放電コネクタをぬらしたり、ぬれた手で触ったりしない感電のおそれがあります。
- 充放電コネクタの電極部分に触れない感電のおそれがあります。
- 充放電コネクタを落とさないけがのおそれがあります。
- 充放電コネクタ内部の部品やケーブルを傷つけない感電のおそれがあります。
- 取り外した部品や工具は、子供の手の届くところに置かないけが・誤飲のおそれがあります。

■緊急離脱の実施前に

以下を確認してください。

- ① トリプル蓄電システム用リモコンに、以下のエラーコードが表示されている場合は、感電のおそれがありますので、お客様ご自身では行わず、お買い上げの販売店にご相談ください。

緊急離脱禁止のエラーコード（以下、下3桁の数字部分を示す）

・716 ・717 ・718

- ② 以下のエラーコードが表示されている場合は、感電のおそれがありますので、機器やケーブルには触れずに充放電ケーブルの亀裂等の外観異常を確認してください。

外観異常確認のエラーコード

・703 ・704 ・706 ・707 ・711 ・713 ・719 ・765 ・766

外観異常がある場合は機器には触れず、お買い上げの販売店にご相談ください。

異常がなければ、トリプル蓄電システム用リモコンの表示に従い操作してください。

操作してもエラーコードの表示が消えない場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

- ③ 表示されているエラーコードが上記以外または、エラーコードが表示されていない場合は、V2Hスタンドの停止ボタンを押して、充放電コネクタが外せないか確認してください。

- ④ V2Hスタンドの停止ボタンを押しても充放電コネクタを外せない場合は、次ページの「充放電コネクタを緊急離脱する」をよく確認し、付属の工具による緊急離脱を実施してください。

充放電コネクタの緊急離脱(つづき)

充放電コネクタを緊急離脱する

1 V2Hスタンドにアクセサリケーブルが接続されていたら取り外す

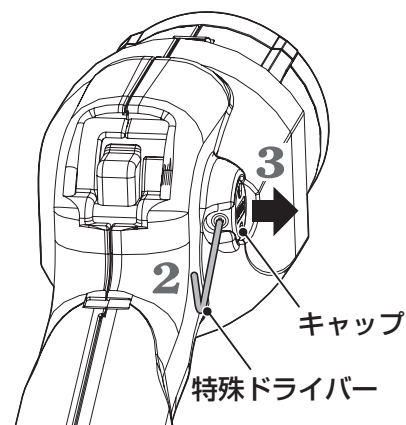
2 付属の特殊ドライバーを使用して、
充放電コネクタのキャップを
固定しているネジを外す

ネジは反時計回りに回して外してください。

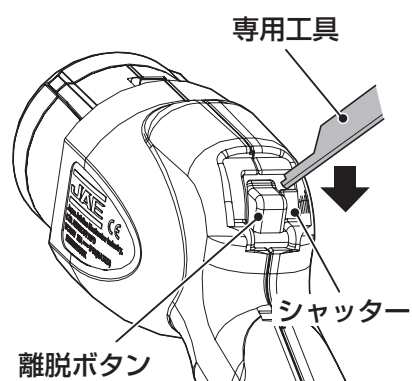
- 他のネジには触れないでください。
- 外したネジは無くさないように保管してください。

3 キャップを右側へ引き出す

- キャップを動かすと音がしますが、問題ありません。



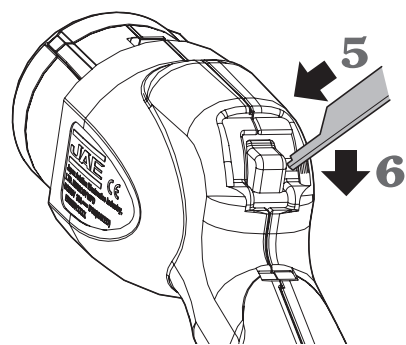
4 付属の専用工具を使用して
離脱ボタンの右横にある
シャッターを押し下げる



5 シャッターを押して開いた穴に
専用工具を奥まで差し込む

6 差し込んだ専用工具を押し下げながら、
充放電コネクタをゆっくり引き抜く

- 充放電コネクタはコネクタホルダーには戻さず、
ケーブルフックに掛けてください。



■緊急離脱の実施後は

当社サービスによる調整・点検が必要になりますので、お買上げの販売店にご相談ください。
緊急離脱実施の理由および保証期間にかかわらず、有償となります。

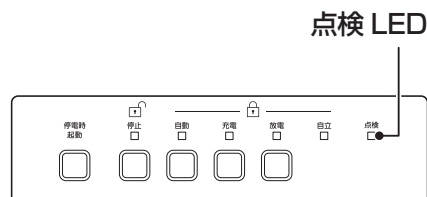
充放電コネクタ・ケーブルの寿命

充放電コネクタ・ケーブルには寿命があり、寿命に達するとV2Hスタンドが停止して使用できなくなります。寿命に達する前に充放電コネクタ・ケーブルを交換(有償)する必要がありますので、寿命が近づいて来たら早めにお買い上げの販売店にご連絡ください。

充放電コネクタ・ケーブルの寿命が近づいた場合

充放電コネクタ・ケーブルが以下に該当すると、適宜トリプル蓄電システム用リモコンにお知らせが表示され、操作部の点検LEDが赤色に点滅します。

- ・充放電コネクタの抜き差しが 9700 回に達した



お知らせ確認

V2Hスタンドのコネクタ・ケーブルの交換時期が近づいています。交換しない場合、安全のためV2Hスタンドを停止します。

[決定] 次へ

充放電コネクタ・ケーブルが寿命に達した場合

以下に該当すると、充放電コネクタ・ケーブルは寿命となります。トリプル蓄電システム用リモコンにお知らせが表示され、V2Hスタンドが停止します。

- ・充放電コネクタの抜き差しが 1 万回に達した

※「V2Hスタンド異常切り離し運転」を行います。

自動でV2Hスタンドを切り離し、残りの機器のみでシステムの運転を継続します。

充放電コネクタ・ケーブルの交換は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

その他のトラブル

■充放電コネクタが濡れた

乾いた布などで、ていねいに水分をふき取ってください。

- そのまま使用すると感電の原因となります。

■充放電コネクタを落とした

充放電コネクタのロック確認窓が青色(ロック)になり、ロックがかかった状態になる場合があります。

その場合は、V2Hスタンドの停止ボタンを押してアンロックしてください。ロック確認窓が銀色(アンロック)に変わります。

- 充放電コネクタのロック確認窓が青色(ロック)のままコネクタホルダーに収納してしまった場合も同様に、コネクタのロックを解除してください。
- 充放電コネクタがひび割れたり、欠けたりした場合は、そのまま使用せずにお買い上げの販売店にご相談ください。

■充放電コネクタをロックできなかった

充放電コネクタの保護のため、アンロック後から次のロックまで約25 秒の間隔をあける仕様としています。動作するまでしばらくお待ちください。

また、V2Hスタンドは施工後に試運転を実施しないとご利用できません。ご不明の場合は、お買い上げの販売店、施工店にご確認ください。

■雨水や雪などで充放電ケーブルが凍り付いた

20～40℃程度のぬるま湯をかけて、解凍してから使用してください。

- 充放電コネクタの電極部には、ぬるま湯がかからないようにしてください。
- 解凍せずに充放電ケーブルを使用すると、ケーブルが傷ついたり、劣化したりするおそれがあります。

■充放電ケーブルに傷が付いた

傷がついた充放電ケーブルは感電や事故などの原因となりますので、そのまま使用せずにお買い上げの販売店にご相談ください。

- 充放電ケーブルを引きずったり、踏みつけたり、自動車のタイヤでひいたりすると、充放電ケーブル表面の被覆が痛みますのでご注意ください。

■車両とV2Hスタンドの通信を示す表示が消えた

自家消費モードで放電下限まで放電し、太陽光の余剰電力がない場合や、手動充電モードで満充電に到達した場合など、充電も放電もできない状態が一定時間継続した場合、本製品は車両との通信を停止する仕様としています。このため、車両側の動作表示が消える(LED消灯など)場合があります。この様な場合でも再び充放電が可能な状況になると、車両との通信を再開し充放電を行います。

■操作内容にかかわらず車両が充電される

放電下限設定値付近より低い残量の場合、残量確保のため充電を行います。放電下限設定値は車両固有の放電下限と関係しますので、合わせてご確認ください。連系運転中は買電が発生する場合があります。

点検とお手入れのしかた

異常・故障時には、直ちに運転を停止し、全負荷分電盤内のトリプルシステム系統用ブレーカ/トリプルシステム自立用ブレーカをOFF(切)にして、お買い上げの販売店または施工店にご相談ください。

特に台風や地震、落雷などの自然災害の後には、販売店または施工店による点検をお勧めします。水没時は感電のおそれがありますので、本体に近づかず、水が引いても触らないでください。

日常点検

安心してお使いいただくために、日常の点検をお願いします。

- 機器の近くに灯油やスプレー缶などの燃えやすいものは置かれていませんか？
- 異音・異臭はありませんか？
- 充放電コネクタ先端の電極部に異物などが付着していませんか？
- 充放電コネクタやケーブルに傷などはありませんか？
- 吸気口・排気口は塞がっていませんか？
⇒吸排気していますので、積雪時は除雪をお願いします。(5 ページ参照)
- トリプル蓄電システム用リモコンにエラーコードが表示されていませんか？
⇒エラーコードは、トリプル蓄電パワーコンディショナ取扱説明書51 ページ参照。

定期点検

長期にわたり安全にご使用いただくために定期的な点検が必要です。

- 周囲温度は-20~+50℃、湿度は90%RH以下(結露なし)ですか？
- 点検スペースは確保されていますか？
⇒4 ページ参照。
- 傷やへこみ、割れ、さびなどはありませんか？
⇒必要に応じて部品交換などを依頼してください。

お手入れのしかた

ご注意

- 運転を停止し、必ず機器が冷えてから行ってください。お手入れ後、運転を再開してください。(トリプル蓄電パワーコンディショナ取扱説明書50 ページ参照)
- ベンジン、シンナーや洗剤を使用しないでください。また水をかけないでください。
- V2H スタンドおよび周囲への融雪剤散布は、錆が発生するおそれがあるためお控えください。

トリプル蓄電システム用リモコンやトリプル蓄電パワーコンディショナなどのお手入れのしかたは、それぞれの機器に付属の取扱説明書をご確認ください。

■V2Hスタンド

- 乾いた布または固く絞ったやわらかい布で本体を拭いてください。
水を直接かけたり、高圧式洗浄装置や洗剤、薬品類(スプレー剤などを含む)は使わないでください。

汚れがひどい場合は

やわらかい布を水にひたし、よく絞って汚れを拭き取ってください。その後、乾いたやわらかい布で水分を拭き取ってください。

こんなときは

必要なときに

仕様

項目		仕 様
品番		KP-DDV-B
車両入出力部	定格電圧	DC 350 V
	動作電圧範囲	DC 150～450 V
	定格電力	充電時：6.0 kW 放電時：6.7 kW(充放電コネクタ端)
	最大電流	充放電時：DC 25 A
	ケーブル長	7.3 m(充放電コネクタを含む)
DCバス入出力部	定格電圧	DC 360 V
	最大電圧	DC 450 V
	最大電流	充放電時：DC 20 A
アクセサリ ケーブル入力部	定格電圧	DC 12 V
	定格電流	DC 6.4 A以下
主回路方式	回路方式	双方向絶縁型DC/DCコンバータ
	回路数	1 回路
	制御方式	電圧型電流制御方式
その他特性	冷却方式	強制空冷
	待機時消費電力	20 W未満
	運転音	正面中央1 m、高さ 1 m ：40 dB以下 その他周囲1 m、高さ 1 m ：45 dB以下
	据付場所	屋外(直射日光可)、標高2,000 m以下
	設置温度範囲	－30 ℃～+50 ℃
	使用温湿度範囲	－20 ℃～+50 ℃ 90 % RH以下(結露のないこと)
	外形寸法	W 420 × H 1250(ベース部250 を含む) × D 210 mm(突起部除く)
	質量	約55 kg(充放電ケーブルを含む)
付属品(お客様保管)		アクセサリケーブル(長さ 7.5 m) (1)、緊急離脱工具セット(1)、 取扱説明書(1)、施工説明書(1)、かんたんガイド(1)

● 他のシステム構成機器の仕様は、それぞれの機器に同梱されている説明書をご確認ください。

■商品構成ごとの充放電電力の目安

V2H スタンド	商品構成	平常時（連系運転）		非常時（自立運転）	
	蓄電池ユニット	放電電力 ^{※2} （交流）	充電電力 ^{※1} （直流）	放電電力 ^{※2} （交流）	充電電力（直流）
あり	蓄電池なし	6.0 kW	6.0 kW	6.0 kVA ^{※3}	6.0 kW
	6.5 kWh	6.0 kW	9.0 kW	6.0 kVA ^{※3}	9.0 kW

※ 値は、単相3線両相合計の目安であり、機器保護等の要因により早めに警告/遮断される場合があります。

※1 太陽光発電電力と系統電力をあわせた場合の最大値

※2 交流電力は商用電源(平常時)とバックアップ回路(非常時)に対する数値です。

トリプル蓄電システム用リモコンの画面では表示しません。

※3 全負荷分電盤「KP-DB75B」使用時は、両相4.0kVA（片相2.0kVA）に制限されます。

全負荷分電盤「KP-DB75B-EP」使用時は、両相6.0kVA（片相3.0kVA）に制限されます。

■移設と廃棄時のご注意

- ・ 使用後の太陽光発電システムは、関係法令(廃棄物処理法、建設リサイクル法など)に従って産業廃棄物として速やかに適切に廃棄してください。詳しくは、平成30年12月27日に環境省より公表された「太陽光発電設備のリサイクル等推進に向けたガイドライン(第二版)」を参照ください。
- ・ 取り外し、移設、廃棄等を行う場合は、専門技術を要するため、必ずお買い上げの販売店へお問い合わせください。

EV接続時のご注意

- V2Hスタンドに接続可能な電気自動車(EV)・プラグインハイブリッド車(PHEV)は、当社公表の対象車種に限ります。

対象車種は、当社ホームページでご確認ください。

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/energy/product/bt/kptp-a/kptp-a_whitelist.html



今後発売される車両については、全ての車種の接続をお約束するものではありません。

接続確認ができた車両については、順次当社ホームページで公開してまいります。

- 本システムをご使用になる前に、必ず接続車両の取扱説明書をご確認ください。対象車種以外の車種が接続されたことによる不具合等に対して、当社は一切の責任を負いかねます。

- 充放電コネクタや手が濡れた状態では、使用しないでください。

感電のおそれがあります。

もし、水分や雪などが付いた場合は、必ず乾いた布で十分に拭きとってください。強い風雨の場合は、十分ご注意ください。

- 雷鳴時(使用時間中に予想される場合も含む)は、使用しないでください。

- 車両充電中にトリプル蓄電システム用リモコンに表示される充電電力の変化が大きくなる場合がありますが、本システムの電力制御によるもので異常ではありません。

- 新たにEVを接続される場合は、総電力量、充電上限、放電下限などの仕様、EV側の設定や操作方法は異なります。EV側の取扱説明書をご確認いただくとともに、必要に応じて各種設定を変更ください。

EVの電力でシステムを起動する手順など、本システムの操作方法については一通りご確認ください。

※車両別に設定を記憶する機能はありません。

補助金申請関連

対象パッケージ型番については当社ホームページをご確認ください。

URL : https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/energy/useful_info/subsidy.html

https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/energy/useful_info/v2x-subsidy.html

蓄電システムとしてのパッケージ型番は、トリプル蓄電パワーコンディショナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

お知らせ

- 補助金の支給を受けて対象システムを購入した場合、所有者(購入設置者)は、定められた年数の間、当該システムの適正な管理・運用を図る必要があります。本製品をご購入後は故障内容により無償または有償の修理を行いますので、故障の際はお買い上げの販売店にご連絡ください。

保証とアフターサービス (よくお読みください)

保証について

保証に関する内容につきましては、お買い上げの販売店の条件によるものとさせていただきます。
詳しくは、お買い上げの販売店へ確認してください。

修理を依頼されるとき

ご連絡の際は、次の項目をお知らせください。

- 製造番号
トリプル蓄電パワーコンディショナ、蓄電池用コンバータ：本体正面のラベルに記載
トリプル蓄電システム用リモコン：本体裏面のラベルに記載
V2H スタンド：本体右側面のラベルに記載
蓄電池ユニット：本体左側面のラベルに記載
- お買い上げ年月日
- ご住所、お名前、電話番号
- 故障内容、故障発生時の状況（天候や時間など）

製造番号	
お買い上げ年月日	年 月 日
ご住所	
お名前	
電話番号	() -
故障内容・故障発生時の状況	

商品のお問い合わせは

商品・修理・トラブル・メンテナンス・別売品についてのお問い合わせは、お買い上げの販売店に相談してください。

店名	
住所	
電話番号	() -
販売店押印欄	

オムロンソーシアルソリューションズ株式会社

〒108-0075 東京都港区港南 2-3-13 品川フロントビル 7F

© OMRON SOCIAL SOLUTIONS Co.,Ltd. All Rights Reserved